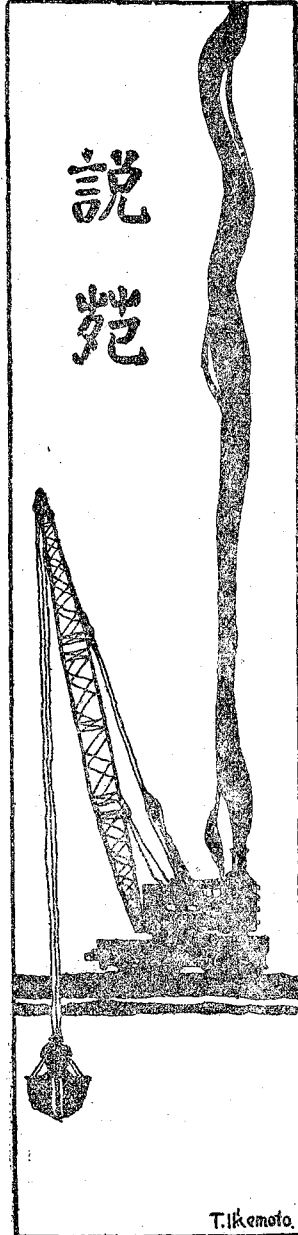


説苑



道路改良と青洲子爵



道路改良會理事

山田英太郎

曩に澁澤子爵米壽祝賀會に際し私が龍門社理事坂谷男爵の囑により鐵道事業及び道路改良と子爵との關係に就き叙述を試みた所改良會の本部よりは特に私を催して右道路關係の事柄は本會の

史料ともなり又本會として子爵の米壽を祝するの料ともなるにつき更に本會の爲めに執筆する所あれとの所望あり乃ち標題の意味にて概要を述べてみる。

そもく道路改良會は、過ぐる大正七年中子爵が大日本國防義會の會長として在任せられたる當時の事である、歳の十二月二十九日と云へる、節季切迫の一日を擇みその大日本國防義會の主催として、折柄來遊中なる米國の道路改良家サミュエルヒルを招請し、東京商業會議所に於て「國防と道路」と題せる臨時大講演を催したる其の夜の晩餐會席上、ヒル氏が更に一場のテール演説を試みた終りに、今夕の主公たる大日本國防義會々長澁澤子爵の前に予が携來の幻燈機を献上して道路改良希望の紀念とする旨の附言をしたのに發端し、ヒル氏の退出の後とて、子爵が水野鍊太郎、床次竹二郎、石黒五十二、堀田貢、淺野總一郎竝に私等國防義會の常任理事を合せ約十六七人を別室に會し、茲に一個の新團體を創立し、道路改良の促進に任ぜんことを發議して滿場の贊同する所となり、萬事は來る新年早々の會合に期すべしと約されたのが全く緒口となつて、明くれば大正八年一月二十四日子爵は水野鍊太郎氏と連署して其の兜町なる事務所に第一次道路改良會創立之準備會を招集し、同二十九日に第二次會、二月十二日に第三次會、同二十二日に第四次會と促々集議を進め、尙二十三日より二十八日に涉る連日の會合に著々準備を整へ、翌三月一日朝野の有力者二百六十餘人を丸の内なる銀行俱樂部に招集して發起人會を開き子爵が設立計畫の經過報告演説に次で、趣意書及規約の議決役員の選任等型の如く終りて、愈々本會の成立を告げ、事務所を丸の内仲通なる大日本國防義會の一室に置き、義會の事務員と内務省の専門家等に兼囑して事業及豫算の調査を急ぎ、兼て東京市路面改良計畫

の調査に著手した次第であつた。尙此の創立の歴史に就ては私が其の當時に記述して置いたものがあり、道路改良會史前の史と題して本會の機關雜誌、道路の改良第五卷第三號に載せられてゐる。參看せられたなら、如何に子爵が其の創立の事に熱心盡力せられたか、詳細に分るであらう。

斯くして道路改良會は全く子爵の盡力で成り立つたもので、子爵と床次竹二郎氏とを顧問とし、水野鍊太郎氏を會長に、内田嘉吉氏を副會長に、歴代の内務、土木局長を庶務主掌の常任理事とし、私も亦創立當時より子爵と水野氏との囑により、乏を經理主掌の常任理事に承け、官民各方面十餘人の理事、監事其の他數十の有力者を評議員としたる組織であつて、何れも中央地方全國道路改良の促進に努力し、創立一二年の後には事務所を内務省の一室に移して、官民協調聯絡の便を計り、大正十年には規模を改めて社團法人の組織を取り、會員贊助會員も全國に普遍して其の數七八千を超え、蔚然と一大團體を爲して既に國家に貢獻した事蹟も尠くない、彼の八、九年に涉りて道路法、道路公債法等の制定せられたるが如き、又年々の政府歳出豫算に國道府縣道、軍事國道、都市街路の改良費補助金數百萬圓（三百五十萬圓乃至五六百萬圓）を計上する事實を見る様になつたが如き、何れも改良會が促進運動に繋がる所なしと云ふべからず、特に毎年政府に於て此改良費豫算を調製する際の如き、道路改良會は何時も子爵と私とに當路者歴訪の運動を課するの例であつて、一々首相、内相、藏相と順次に豫算關係の當路を訪問し、陳情し、建議し、勸説し、時としては侃諤の論議を試むることもあり、先年加藤憲政内閣が初めて組織せられて、或は大正十四年度の道路改良費豫算を廢減せんとするやの噂ありたる時の如き、改良會の驚きは一方ならず、大分八釜數議論の末、子爵と私とは建議書を携へて三相を歴訪せしが、

加藤首相に對し私はちと云ひ過ぎた程遠慮なく披瀝したこともあつたが併し十四年度の豫算は十三年度の四百二十五萬圓から七十五萬圓を低減せられて三百五十萬圓となり、昭和二年豫算まで三ヶ年度を通じて三百五十萬圓宛に据置かれ大正七年度以降八年度間の豫定計畫に對する成績は三千三百萬圓を實行し二千九百萬圓を繰延べた實際となり、全國道路改良の狀態が漸次緩漫不良に成り行くの恐ありたるにより、昨秋政府が昭和三年度の豫算案を定めんとする時期に際しては、改良會内の熱度も一層高まり、例に依り理事會の決議を以て長文の建議書を作り、子爵と私とに附して三相歴訪の運動を課した、すると子爵の熱誠なる十月十二日午前十一時を期し先づ永田町なる文相官邸に會して、水野會長と一應の打合せを了り、三土藏相、鈴木内相、田中首相と豫約時間の順次歴訪に午後三時迄を費し、首相官邸の玄關先でお別れしたことであつたが、アノ多忙な子爵がかうして半日を割愛し、而も八十八歳の老軀を挺しての此運動盡力には、改良會の誰彼となく感謝を禁ぜざる次第であつた、されば三相も善く子爵の誠意と道路政策の急務に感徹せしものか、昭和三年度の改良費豫算は前年度の三百五十萬圓を倍加して、七百萬圓を上案せしやに傳聞せしも、折悪敷衆議院の解散に會し、子爵の誠意も未だ報いらるゝに至らざれども顧みれば大正八年始めて道路改良會の創立せられた當時に在つては、我東京市の都大路ですら一尺の鋪裝道路をさへ見出すに由なかつたものが、今日では中央と云はず地方と云はず、大分改良鋪裝の道路も出現して自動車諸車の運行も漸く輕快に、一般の交通往來も段々秩序立ちて行きつゝあり、是れぞ子爵の周旋盡力に成つた道路改良會の促進運動が與つて力ありたる効果なりとすれば、前段子爵が鐵道事業に貢獻せられたると軒輕あることなく、

所謂人の憂を憂ふるものは人亦其の憂を憂へ、人の樂を樂しむものは人亦其の樂を樂しむと云ふので、常住不斷報いられつゝあるのである。是れ子爵が此の如く老軀を驅て倦色なき所以ではないか。(終)

道路改良偶感

東京商工會議所議員

阿部吾市

人類が集團生活を本能的に必要とする以上、我々の祖先の遊牧時代から今日迄、道路は全く必要缺く可からざるものであつた。而して將來人間が鳥類の如くに自由に容易に空間を交通し得ざる限り、我々の子孫も亦道路と交渉無き生活を營み得ぬであらう。斯く人間と道路とは實に密接な關係に結ばれてゐる。其道路に對する我々の態度は如何か、それが餘りに必要であるに對して我々は餘りに冷淡であるといふ事實を痛感せねばなるまい。

○
道路は必ずしも丸の内附近のやうな廣幅なものをのみ必要とせぬであらう、其交通の繁閑によつ